

2020 年度地質標本館における博物館実習

中村 由美¹⁾・森田 澄人¹⁾・兼子 尚知²⁾・利光 誠一³⁾

1. はじめに

地質標本館では、人材育成の一環として1993年度以降、国内の大学から博物館学芸員を目指す学生を受け入れ、博物館実習を実施してきました(「産総研は人を育てる」p.17: https://www.aist.go.jp/digbook/sansoken_human/book.pdf; 2021年1月20日閲覧)。例年行われている実習内容については、本号の兼子ほか(2021)に具体的に紹介されていますが、だいたい10日間の実習を基本として、オリエンテーション、普及活動実習、標本取り扱い実習、展示実務を行っています。

2020年度も博物館実習を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響を受けて、実施が危ぶまれる状況になりました。このため感染防止対策を講じながら、日程の短縮や実習内容の変更など、例年とは異なる新たな形式を模索しました。このようにして、6大学から12名の実習生を迎え、博物館実習を無事に終わることができました。本稿では、この特殊な状況下で行われた博物館実習の様子をご紹介します。

2. 実習の内容

2020年度の博物館実習は、実習生を6名ずつ2班に分け、8月下旬と9月中旬に各班とも5日間実施しました。

【実習1日目】

実習初日は、オリエンテーションとして森田館長が地質標本館の概要や役割の説明をし(写真1)、中村他が館内や収蔵庫の見学案内(写真2)を行いました。職員による展示解説や普段見ることのできないバックヤードの見学は、一般向けの館内展示を見学したことのある実習生にも新たな発見があったようです。

【実習2日目】

2日目は、館内にある岩石薄片製作室の見学(写真3)、展示標本清掃等を行いました。

岩石薄片製作室では、試料調製グループの職員の指導のもとで見学のほか岩石薄片作製の一部を体験しました。当館は研究所内にある施設ですから、研究者はもちろん、研究を支える技術者がいる現場があることは特色の一つで



写真1 館長の説明(実習1日目)



写真2 館内見学(実習1日目)

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター

2) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門

3) 産総研 地質調査総合センター 研究戦略部

キーワード：地質標本館、博物館実習、学芸員、展示解説、展示標本清掃、水路実験、液状化実験、岩石薄片、体験型学習



写真3 岩石薄片製作室見学（実習2日目）

す。実習生からは、「薄片作製の高い技術に驚いた」「研究を支える業務について知ることができて良かった」等の声が聞かれ、たいへん印象に残ったようです。

【実習3日目】

3日目は、前日に続き展示標本清掃(写真4)と館内展示物の見せ方に関する課題(最終日に発表)の準備等を行いました。「地質標本館」という館名の通り、常時およそ2,000点の標本を展示しており、その半分以上が第4展示室にあります。展示標本清掃では、その第4展示室に展示している標本をひとつひとつ取り出し、展示ケースや展示台まで含めて丁寧に掃除していきます。まず化石や鉱物標本の取り扱い方について利光、兼子より説明を受け、二人一組になり作業を行います。最初は標本の取り扱いにとっても緊張した様子でしたが、慣れてくるとそれぞれ良いチームワークでスムーズに作業を進めていました。清掃の終わった標本は展示ケースにただ戻すだけではなく、より魅力的に見えるように標本の微妙な角度や間隔の調整等、「見せ方」を実習生が試行錯誤しながら再配置しました。



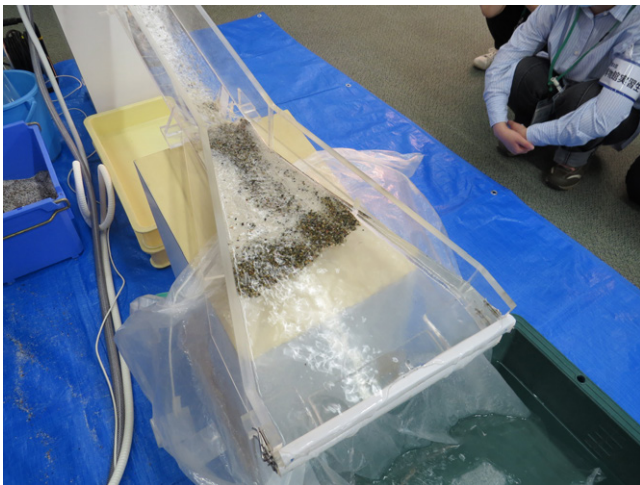
写真4 展示標本清掃（実習3日目）

【実習4日目】

4日目は、体験学習イベントや学校団体に実施している水路実験(透明アクリルで作った「川」に砂を流し、三角州や平野ができる様子を見る)・地盤液化実験(水を満たしたペットボトルの中で堆積した砂が流動化していく様



写真5 水路実験準備と実施の様子（実習4日目）



子を観察する）等を兼子他の指導の下に行いました（写真5）。実習生のバックグラウンドは様々ですので、文系の実習生の中には小中学校以来の「実験」という人もいました。そこで、この実験から何を学ぶのかを確認しながら進めました。これらの実験は、来館者に見て体験して感じていただくことが主目的のものです。視覚的に捉えることで、他分野を専攻している実習生も地質現象について理解が深まったようです。

【実習5日目】

最終日5日目は、課題の仕上げと発表会を行いました。課題は、おすすめ見学コースと展示物の一点解説の作成です。おすすめ見学コースとは、個人見学者が館内を一筆書きで1時間ほど見て回れるよう工夫するもので、任意のテーマを設定して作成します。一点解説では、解説員になりきって各実習生が選択した展示物を解説しました（写真6）。今般の状況により関係者のみでの発表会でしたが、人前での発表はとても緊張したようです。2つの課題とも



写真6 課題発表（実習5日目）



に、実習生それぞれの専攻分野を活かした内容で、とても興味深いものばかりでした。知識だけでなく、分かりやすく伝えることの難しさ、見せる側ではなくお客様目線で見ることの大切さを感じた実習生も多かったようです。課題発表の最後に主に指導に当たった職員から、感想や解説時のポイント・アドバイス等が出され、とても有意義な時間となりました。

3. 感染防止対策等

2020年度の博物館実習は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、以下のような対策を講じました。

①指導者の対策

定期的な検温・健康観察、マスク着用等

②実習生への指導

2週間程度前からの検温・健康観察、マスク着用、感染リスクの高い場所への訪問自粛等

③集団感染リスクへの対策

実習時に必要な物品の消毒，配布物の削減，実習室の換気，座席の間隔確保，作業の分散化等

4. おわりに

博物館学芸員資格取得を目指す学生にとっては，実習が実施されるか否かは大きな懸念事項だったかと思います。そのような中で，地質標本館が博物館実習を無事に実施できたことはとても幸いでした。参加された実習生のみなさんの今後のご活躍をお祈りいたします。

謝辞：博物館実習においては，地質標本館委託保守受付の皆様，地質情報基盤センター地質標本館室試料調製グループ・運営グループの皆様，同センターアーカイブ室柳澤教雄氏にご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

文 献

兼子尚知・利光誠一・辻野 匠・中村由美・森田澄人（2021）
地質標本館における博物館実習のあゆみ. GSJ 地質ニュース, 10, 60-66.

NAKAMURA Yumi, MORITA Sumito, KANEKO Naotomo and TOSHIMITSU Seiichi (2021) Curatorial practice at the Geological Museum, GSJ, AIST in 2020FY.

（受付：2021年3月2日）